

今年度の総合教育会議における協議の振り返り 及び次年度協議事項について

令和8年1月23日（金） 教育委員会事務局

1 今年度の協議総括について

2 次年度の協議事項について

1 今年度の協議総括について

2 次年度の協議事項について

1-1. 会議の目的

- 昨年度に続き、教育大綱、教育振興基本計画の実現に向けた協議を実施

本市不変の方針「こどもファースト」

岐阜市教育大綱に掲げる目指す姿、
岐阜市教育振興基本計画の基本目標の実現 に向けて、
昨年度までの協議事項を踏まえつつ、

更なる施策の検討・推進のための協議 を行う

1. 次年度に取り組むべき施策の具体化
2. 中長期的に取り組む施策の方向性・見通しの共有

1-2. 会議日程

● 今年度、以下のとおり**計6回**の会議を開催し、大綱実現に向けた**施策協議及び成果検証**を実施

回	開催日	協議事項	招聘者
1	5/22(木)	誰もが価値ある大切な存在として認められる学校 「岐阜市のいじめ対策の成果と課題について」	川上 泰彦 氏 兵庫教育大学大学院 教授
2	7/28(月)	教職員の働きがいと人材育成 「教職員の姿勢が学校風土の醸成に与える影響について」	露口 健司 氏 愛媛大学 大学院 教授
3	8/29(金)	子どもの発達に応じた学びのシステム 「幼児教育から義務教育修了までの連続的な学びについて」	金子 嘉宏 氏 東京学芸大学 教育インキュベーションセンター長
4	10/3(金)	未来の学校の在り方 「ミライの学校研究会 研究成果について」	栗山 和大 氏 文部科学省 教育課程企画室長
5	12/23(火)	義務教育学校と次世代への学校づくり 「藍川北学園の取組と藍東学園の開校に向けて」	垣野 義典 氏 東京理科大学 教授
6	1/23(金)	年間総括（協議振り返り、協議成果）	—

第1回

【日 時】 令和7年5月22日（木）13:30～15:30

【場 所】 岐阜市庁舎12階 第1・2研修室

【テーマ】 誰もが価値ある大切な存在として認められる学校

「岐阜市のいじめ対策の成果と課題」

【招聘者】 兵庫教育大学大学院教授 **川上 泰彦** 氏

【協 議】 事務局説明

・これまでのいじめ対策からみえる子どもの変容を踏まえた成果と課題についてご提示（学校安全支援課長）

招聘者説明

・「開く」「考える」学校組織づくり

「誰もが価値ある大切な存在として認められる学校」をどう実現するか

協議事項

・誰もが価値ある大切な存在として認められる学校にするためにさらに取り組むべきことは

1-3. 第1回（協議総括）

協議意見の要旨

- 子ども同士、先生同士でも多様な意見を出し合い、その意見を認め合える環境づくりが必要。
- 先生が個々に対する見取りの中で、見立ての違いを自分の見取り方をアップデートしていくきっかけにすることが大事。
- 教職員や学校であるがゆえの特性がある中で、岐阜市の目指す学校の実現に向けては、学校運営協議会を含めた第三者の役割が大きくなっていくのではないかと。
- 児童生徒が他者への関心をもつことが出発点。意見の相違から他者の価値に気付く側面もあることから、葛藤を通じたコミュニケーションを学校が認めていくことが必要。それを子どもが成長していくための必要なプロセスとして、保護者とのコンセンサスを形成することも必要。
- 問題が起きるのが人間同士の関わりであるから、大人や教師の関わりが重要。学校の中で、自分以外の人の命をどう見るのか、自分と異なる人とどう繋がっていくのか、共生の体験と対話がポイント。

協議意見を踏まえた施策検討

●：具体的な施策（案） ○：今後の方向性、見通し

① 岐阜市のいじめ、不登校対策の推進・深化

- ・いじめ事案を風化させない総合的な取組
- ・校内フリースペース支援員の配置、大学生の活用、備品の充実化
- ・児童がわくわくするような日課、空間づくり

② 他者の価値を認め合える環境の更なる構築

- ・異年齢集団の活動で多様な価値観に触れるとともに、地域住民や民間団体との連携、協働体制を構築し、社会で生きていく力を養う

第2回

【日 時】 令和7年7月28日（水）13:30～15:30

【場 所】 岐阜市庁舎6階 6-1会議室

【テーマ】 教職員の働きがいと人材育成

「教職員の姿勢が学校風土の醸成に与える影響について」

【招聘者】 愛媛大学大学院教授 露口 健司 氏

【協 議】 事務局説明

・これまでの働きがい改革の分析と今後の方向性についてご提示（学校指導課長）

招聘者説明

・Work Engagement 教職員の働きがいと人材育成

協議事項

・教職員が主体性を持って成長し続けるために必要なことについて

1-4. 第2回（協議総括）

協議意見の要旨

○教員の学級単位でのワークエンゲージメントと子供たちの学習意欲は非常に相関関係が強い。一方で、先生方の勤務時間の縮減や働きやすさの実感は、子どもたちの学習意欲とほとんど関係がないということが分かってきており、教職員の働きがいの実感が子どもたちにとってもプラスになると推察される。

○単純に業務時間の長短だけが問題ではなくて、どのような業務にどのように時間を使うかという中身も含めて変えていかないと、働きやすさという部分も不十分で、まして働きがいにはなかなか繋がっていかない。

○信頼関係は業務の効率化にも影響を与える。信頼関係があるから仕事がスムーズに進む。子どもや保護者との関係も同様で、信頼に基づく効率化の力を色々な場面で活用することが大事。

○以前は放課後に行っていた、授業や生徒指導に対する先輩後輩間の相談やアドバイスによる、職位とは全く関係のない自分の成長を自分で味わうといったような面白みが減ってきている部分がある。教員の大半を占める教諭の成長を支える仕組みが大事だ。仲間との時間、研修の質と中身といった新しい切り込みが働き方改革や働きがい改革には必要。

○教員の○得意不得意によっても負担感を感じる業務はそれぞれ異なるため、ノウハウやコツを共有し改善していく等、同僚の力で改善させていく。負担感のある業務を集めて、共通する普段業務から手をつけていくと、多くの先生方が楽になっていける。働きがいを蝕む要素を抽出して、それを同僚との関係の中で改善していくことが大事だ。

協議意見を踏まえた施策検討

●：具体的な施策（案） ○：今後の方向性、見通し

① 教職員の業務量管理・健康確保措置実施計画の策定、実施

- ・岐阜市教職員サポートプラン2020に基づいて実施してきた取組を見直し、教職員の働きやすさ、働きがいを両立することで、子どもたちへのより良い教育の提供を促すとともに、在るべき学校風土の醸成を目指す

第3回

【日 時】 令和7年8月29日(金)13:30~15:30

【場 所】 岐阜市庁舎6階 6-1会議室

【テーマ】 **子どもの発達に応じた学びのシステム**

「幼児教育から義務教育修了までの連続的な学びについて」

【招聘者】 東京学芸大学 教育インキュベーションセンター長 **金子 嘉宏** 氏

【協 議】 事務局説明

・学びの連続性を高めるこれまでの取組と目指すべき学びの在り方についてご提示(学校指導課長)

招聘者説明

・未来の学校 みんなで創ろう。学校をワクワクする場所に

協議事項

・幼小中の連続的な学びを実現するために必要な方途について

1-5. 第3回（協議総括）

協議意見の要旨

○幼稚園から小学校に入った途端に、皆が同じ方向を向くようにしており、遊びを通した学びから大きく環境が変わってしまう。学習内容の連続性だけでなく、その土壌に連続性がないとうまくいかない。

○自己決定、探究する力を伸ばすには、基礎・基本をきちんと教えるということも大切で、そのバランスが重要になる。異なる学校種の教員同士が協力して繋がりを見つけていくとか、子ども同士の活動の連続性の中から系統立てていくとか異なる観点から一步踏み出すことも必要。

○ずっとその子を見ているのは、実は学校や先生ではなくて地域や家庭であるから、連携しながらフォローしていくべき。

○体験的な学びは振り返りがないと学びになりづらいので、大人側の役割は、それを学びとして価値付けることが重要。それが伴走であり、先生がきちんと伴走してあげると、その中にある子どもの良さや伸ばすべき点が見えるから、それを見逃さない教育をいかに展開していくか。

協議意見を踏まえた施策検討

●：具体的な施策（案） ○：今後の方向性、見通し

① 幼小連携、小中一貫教育のさらなる充実

- ・幼児教育と学校教育の職員がお互いの職務や子どもの発達について理解を深め、対策を講じることで入学時の不適応を軽減する
- ・保護者に対しても、幼児期からの教育理論に触れるきっかけをつくる

② 15年間を見通した教育システムの構築

- ・幼～中の発達の段階と教育や学びの仕掛けを組み合わせた一貫性のある教育、継続的な見取りと伴走的な支援による校種間のしなやかな接続を目指す

第4回

【日 時】 令和7年10月3日（金）13:30～16:00

【場 所】 岐阜市庁舎6階 6-1会議室

【テーマ】 未来の学校の在り方

「ミライの学校研究会 研究成果について」

【招聘者】 文部科学省 初等中等教育局 教育課程課 教育課程企画室長 **栗山 和大** 氏

【協 議】 ミライの学校研究会提案説明

・ミライの学校研究会提言 -未来社会に生きる子どものために-（長良東小学校 中村校長）

招聘者説明

・次期学習指導要領に向けた検討状況

協議事項

・岐阜市の未来の学校の在り方とそれを実現するために必要なことについて

第5回

【日 時】 令和7年12月23日（火）13:30～15:30

【場 所】 岐阜市庁舎6階 6-1会議室

【テーマ】 義務教育学校と次世代への学校づくり

「藍川北学園での取組と藍東学園の開校に向けて」

【招聘者】 東京理科大学 教授 **垣野 義典** 氏

【協 議】 事務局説明

・これまでの取組を踏まえた今後の岐阜市の学校づくりの考え方についてご提示

招聘者説明

・学びの多様化がはかれる時代の義務教育学校と次世代への学校づくり

協議事項

・得られた知見を各学校へ波及させるために必要な事について

1-6. 第4・5回（協議総括）

協議意見の要旨

第4回

- 好きな分野が同じ子どもたちが、異年齢で探究できる活動やクラスが必要ではないか。クラブ活動や部活動の時間が少なくなって生きている中で、好きな事を学ぶ時間を取れないのであればあえて作ってあげることが必要。
- 子どもが色々なイベントに企画段階から関わっていくことは重要。市が主催するイベントにも主体的に運営や企画に関わっていただき、街の中で学び探究できるチャンスが岐阜市には多くあるということを形にできるとよい。

第5回

- 藍川北学園で一人一人の意見が出やすいということは、交流しやすい空間ということ。その結果、いきいきとした交流、低学年と高学年の双方が安心できる関係性が生まれているのだと思う。固定観念に縛られない考え方が必要。
- 子どもの主体的なイベント運営等の中で、地域の方々自ら足を運んでいる姿が具現化されている。子どもたち自身が文化を作り、地域社会との関わり方を学ぶとともに、関係者それぞれが自分事として学校運営を行うという好循環が生まれるのではない。
- マインドは横展開しづらい。ある程度形式化、モデル化したものを示すことが1つの手段。
- 生徒と教員の共有と共感が大切。それを促進する学校の要素は、子どもが選択できる可能性を広げていくこと。色々な人々が見合うことができる場所を作ることが大事で、視線がキーワード。

協議意見を踏まえた施策検討

●:具体的な施策(案) ○:今後の方向性、見通し

- | | |
|---------------------|---|
| ① 藍川北学園での取組の横展開 | ・異学年での日常的な交流、好きや得意に応じた探究的な学び、学習空間の工夫等により、連続性のある教育、専門性の高い学び、社会性を育む営みの実現を図る |
| ② 藍東学園開校 | ・好きや得意に応じた探究的な学びを核とした学校づくりの中で、異年齢、同年齢、地域社会という3つのコミュニティで生きるを学ぶ |
| ③ 子ども発の地域連携、協働活動の工夫 | ・子どもが企画・運営に関わる地域イベントの支援や授業と連動した地域課題の探究活動の推進を図る |
| ④ 子どもが主語となる教育と空間づくり | ・一律一斉だけでない、目的に応じて変化する学習形態
・弾力的な教育課程と学級づくり
・地域全体を学びの場とした空間活用 |

第6回

【日 時】 令和8年1月23日(金)14:30~16:00

【場 所】 岐阜市庁舎 12階 第1・2研修室

【テーマ】 **年間総括**

【協 議】 事務局説明

・今年度の総合教育会議における協議総括及び次年度の協議に向けて

協議事項

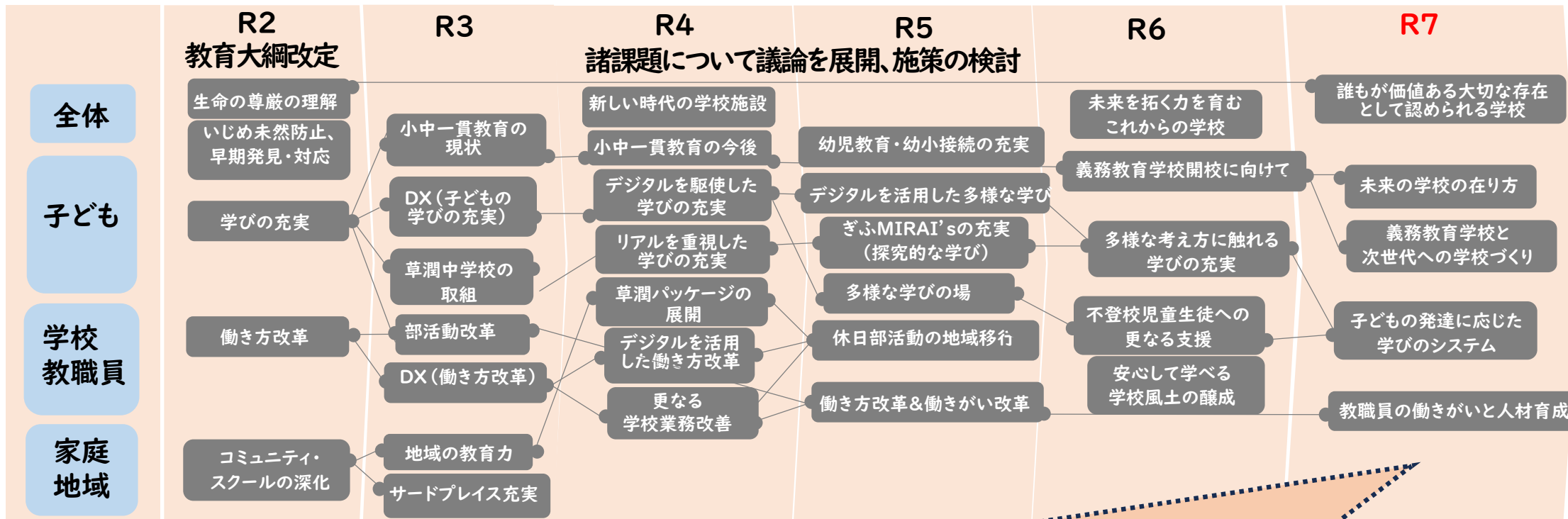
・今年度の協議成果及び次年度の協議事項について

1 今年度の協議総括について

2 次年度の協議事項について

2-1. これまでの議論

● 教育大綱の具現化を図るため、諸課題について議論



R7は、教育大綱、第4期教育振興基本計画に基づく施策を振り返り、今後の方針に向けた議論を展開

第1回

他者の価値の理解

- 共生の体験と対話
葛藤を通じたコミュニケーション
- ・ 異年齢活動や地域との関わりで
多様な価値観に触れる教育
- ・ 多様な価値観を持つ子どもを
受け止める居場所

第2回

ワークエンゲージメントの 向上

- 心理的安全性に基づいた
業務の効率化と主体性のある
教職員の育成による良質な
学校風土の醸成
- ・ 子どもへ影響を与える教職員の
成長

第3回

学習環境と内容の 連続性の強化

- 幼～中のしなやかな接続
- 学びを支える伴走的な支援
- ・ 地域や家庭と連携した
子どもの継続的な見取り
- ・ 幼稚園での学びの要素
のカリキュラムへの導入

第4回

真に子どもを主語にした教育と空間づくり

- 学年や教科の枠を越えた学習
- 教える教室から学ぶ空間へ
- 地域とともにある学校
- ・ 弾力的な教育課程や学級づくり
- ・ 目的に応じて変化可能な学習形態
- ・ 地域全体が学びの空間

2-2. 次年度の協議に向けて

多様な視点から協議の充実を図り、教育大綱のさらなる具現化へ

- ・これまでの協議から、第5期教育振興基本計画の礎とする議論
- ・岐阜市の「未来の学校」をさらに具現化していく議論
- ・将来的な課題を見据えた議論

等

次年度の主なトピック

国の動き



○学習指導要領改定に向けた検討



○子どもの体験活動の推進

○いじめ・自殺予防対策等の推進

○校内外教育支援センターの機能強化等の推進



○多様な優れた人材の教師入職総合支援



○幼児期及び幼保小接続期の教育の質的向上



○高等学校改革の推進

○学校施設整備の推進

等

市の取組



○新しい時代の学びにつながる、教育システムの整備
・義務教育学校の取組



○安心して過ごせる居場所づくり
・民間活力を活用した支援



○不登校の子どもの居場所づくりと学びの支援
・小学校不登校対策
・不登校児童生徒のためのサポート



○学校業務改革と教職員の働きやすい環境づくり
・支援システムやサポートプランの充実



○家庭教育支援の充実
・幼児期からの教育理論に触れるきっかけづくり

○地域に根差した教育の推進
・高大連携の可能性

等

2-2. 次年度の協議に向けて

● これまでの議論等を踏まえたキーワード

① 第5期岐阜市教育振興基本計画に向けて

希望あふれる未来を拓くために必要な資質・能力 —— 学校・園、家庭、地域、行政に求められるもの

② 15年間を見据えた教育

幼～中のカリキュラム改革

次期学習指導要領との連動

多様性の包摂

子どもの見取り（伴走支援） —— インクルーシブ教育

③ 学びの環境づくり

学びの空間の使い方

藍東学園開校後の取組

④ 教職員の役割

子どもを主語にする授業のデザイン

教職員サポートプラン2026に基づく取組

生成AIとの関わり方

⑤ 地域の拠点となる学校

地域とともにある学校

家庭、地域との連携・支援

子ども発の取組

官民連携の可能性

施設の多機能化

適正規模・適正配置の考え方

3. 論点整理

● これまでの説明を踏まえ、主に以下の事項について、ご協議いただきたい

・ **今年度の協議成果と次年度の総合教育会議で協議すべき事項** について